

授業改善に結びつく評価 方針とは

J. Elizabeth Miller

Northern Illinois University
DeKalb, IL, USA

教員は授業改善のために
複数の評価手法を用いる
ことができる



なぜ複数の方法を用いるのか

- いかなる情報も単一では不十分である
- 複数の方法が用られてはじめて「チェックアンドバランス」のシステムを作ることができる
- それぞれの方法は異なった視点を示してくれる

学期末の授業評価

- 米国で最も一般的に用いられている
- 学生による評価の中心は学期全体を通しての教員の授業に対する学生の感想及び意見である

標準的な調査の例

SD

SA

My instructor:

1 2 3 4 5

➤ 説明が明快であったか

1 2 3 4 5

➤ 授業はよく準備されていたか

1 2 3 4 5

➤ 重要なポイントがまとめられていたか

自由質問の例

- この授業において最も良かった(悪かった)点は何ですか？
- 教員の配布資料は役に立ちましたか？将来的にも使えそうなものですか？
- 採点方式(試験、研究課題、ディスカッション等)は毎回同じでしたか？

学期途中での授業評価

- フィードバックのタイミングとして現時点で授業を受けている学生に利益がある
- 授業方法の改善に積極的に参加させる
- 教員は適切な方向へ軌道修正できる

学期途中での評価の例

- この授業をより良くするために私は
（ ）
を変えたら良いと思います
- 小テストは（ ）
- あなたの学習のために、教員にはさらに何が
できるでしょうか？

自己評価

- 現状を省みるための体系的な流れを作る
- 学生の見解と比較することができる
- 実際の現場において他の教員の理念や目標と比べることができる

自己評価の例

- 本当に授業の題材に興味を持ち授業を行ったか？
- 説明する際はうまく時間配分ができていたか？学生に回答を求める際は、一旦間を置いたか？
- 学生が教員としての自分について今後10年間覚えておいて欲しいものは何か？またそれはなぜか？

まとめ

- 評価を行うための包括的な評価プランを開発する
- 授業改善に向けた効果的な方略を生み出すために複数の評価方法を用いる
- 多様な情報源が授業のポートフォリオを作り出す基盤となる
これが授業改善のためには最も良い方法の一つ